

「SORAデザイン」がつくった
熊本市南区在住 / Kさんの住まい

家づくりは、暮らしづくり。 暮らしを楽しむ空のある家

「SORAデザイン」のつくる家は、
家族を雨風から守るためのハコであり、
家族が暮らしを楽しむためのモトである。
そんな考えに共鳴したKさん一家の家は
家の真ん中に大きな空がありました。



幅90センチの天板を渡したコの字型のキッチン。あまりの使い勝手のよさに、休日はご主人がキッチンに立つことも



外観はグレーの塗り壁。軒の内側に施された木がポイントに

どこの会社にもなかった
価値観や発想に魅せられて

「この場所に家を建てる時、SORAデザインの幕が張られた姿を見て、私すごうれしかったなあ」。そう振り返るのは、ありとあらゆるハウスピルダを巡り、最終的に「SORAデザイン」に家づくりを依頼することを決めたという奥さま。納得するまで家づくりの書籍を何冊も読み漁った奥さまが、自ら作成した求める家の条件は3つ。「長持ちする家」、家族が仲良く暮らせる家、自然

私の
すきな
場所

【キッチン&ダイニング】

調理台とフラットな高さで繋がる幅広いカウンター。ダイニングとしてはもちろん、子どもたちは宿題をしたり、料理のお手伝いをしたり。家族のコミュニケーションを広げるデザインは「SORAデザイン」の特徴

を取り入れたパッシブデザイン。これらを引上げ、十数社のハウスピルダにアプローチしたのだとか。「私たちの希望を心から汲んでくれる図面をいただけただけは数えるほどしかなかったですが、SORAデザインは、一味違いました。要望を取り入れるだけでなく、さらに暮らしを豊かにする提案をいただきました」と奥さま。初めて「SORAデザイン」の家の内覧会を訪れたときの感動を今でも忘れられないのだという。二歩足を踏み入れた瞬間、私たちもこんなワクワクできる家に住みたい！と心から思いました。家も、家づくりに対する考え方も、私たちが今まで見てきた他社のどことも似ていないカタチをした家でした」。



「中庭の紅葉とその向こうに見える子どもたちの笑顔を眺めながら、入るお風呂が最高の癒し」と奥さま



おもちゃや絵本は壁の一面に寄せて。のびのびと遊べるスペースを確保してあげれば、姉妹仲良くいつまでも遊んでいられるのだとか



右/約6畳の和室の上には屋根裏収納を。左/寝室は、奥さまの大好きなマリメッコの柄をポイントに



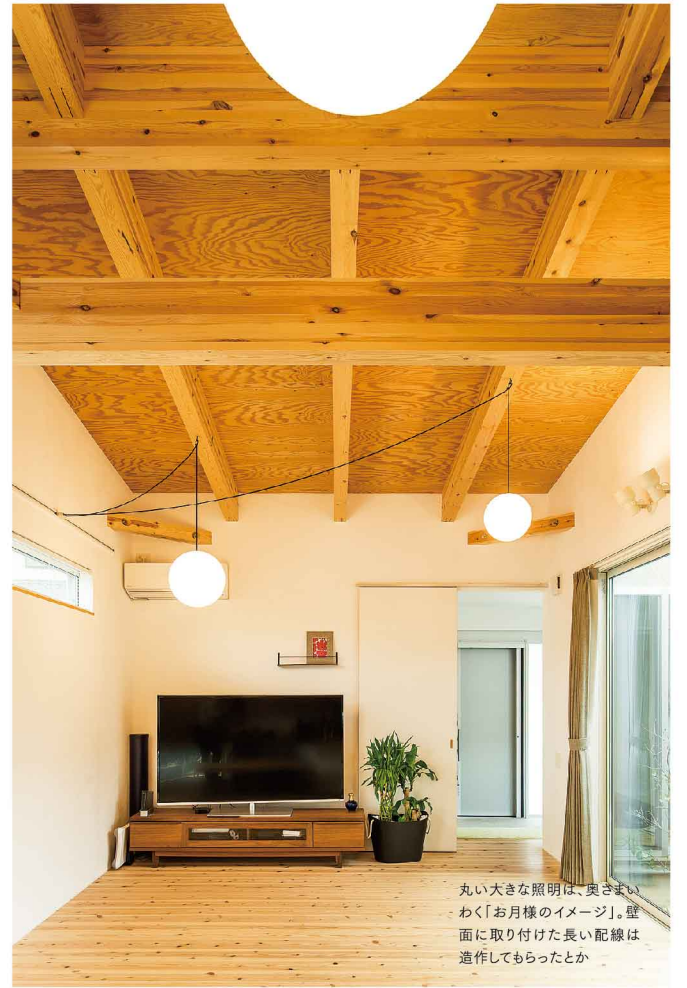
子ども部屋の壁は漆喰。家族で一面を塗った思い出も。その時の手型と比べて「こんなに大きくなった!」と姉妹



中庭からの採光が家中を明るく照らす。中庭の紅葉が色づくさまを眺めながら四季の移り変わりを楽しんで



中庭を介して繋がるダイニングと子ども部屋。そこを自由に行き来する子どもたちの楽しそうなこと!



丸い大きな照明は、奥さまいわく「お月様のイメージ」。壁面に取り付けた長い配線は造作してもらったとか



「家事動線をとにかく短くしたかったです」と奥さま。中庭に洗濯物をすぐに干せる動線やお風呂からの借景は奥さまのお気に入り

な問題も軽く論破されてしまいましたけど」と奥さまは笑った。
建てた後にも細かい配慮
住みこなしのアドバイスも
「生活感のないスタイリッシュな家もいいけど、程よく抜け感のある自由な気分の暮らしにこそ私たちが求める家族像がある気がします」と奥さま。

「たとえばキッチン道具もしまい込まずに見せてもいい暮らしことの喜びも煩わしさも、全部ひっくるめて自分のものになりたいんです。」「建て終えた今、SORAデザインの方は、ハウスビルダーでもありながら私たちの暮らしのアドバイザーと化しています(笑)。調理器具の洗い方から畳椅子(SORAデザイン)が提案する特注家具の目の正しい向きまで整えて行ってくれます。私たちと、他ではきつとあり得ない距離感で接してくれますね。この「お客様」ではなく、「大切な仲間」のような関係性がこれからもずっと続いていくことほど嬉しいことはないですね。」



高度な設計力がもたらす 構造とデザインの融合

K邸の外観は塗り壁の質感がシックな雰囲気醸す緩やかな片流れの屋根。玄関の軒に現れている梁は、室内の子ども部屋やLDKの天井を走る梁と繋がるもの。家全体を貫く梁が、美しい線を描いている。K邸のように構造的なフレームワークをデザインと融合させ、綺麗に見えることは実はとても高度な設計

技術が必要だ。閉じてしまえば、見えない構造的な部分まで美しく図面に起こす高い設計力が、他では出会えない開放的な間取りを支えている。K邸は、広い中庭を囲んでそれぞれの部屋が放射状に広がる口の字型。行き止まりのない間取りが好奇心を刺激するつくりだ。「デザイナーのいい家は、家の構造が疎かだと勝手に思い込んでいた私。自前の参考書を片手にクイズを出したこともありました。どん



玄関扉と横並びに設けた扉を開ければ、ご主人の書斎へ。愛用のバイクやスノーボード、本など趣味の道具を詰め込んで